

『絵を描くときに至福のとき』

油絵を初めて描いたのは今から何十年前でしょう。小学校6年のとき担任の先生がたまたま美術の先生でした。ある日家へ遊びにいったとき道具一式をお借りして雪山を描いたのが最初です。以来キャリアは長いのですが、なかなか思うような絵が描けません。昨年米寿を迎えられた渡邊幸一先生はお元気で、今でもたびたびご教授をいただいております。先生がいつも言われることは、上手く描こう、綺麗に描こうと思わず、風景でも、静物でも対象を見て自分の心の中にあるもの、感じるものをそのまま描きなさい。そうするとだんだんと個性豊かな自分の絵になってくると。

私は年に何回か、家内と車でスケッチ旅行に出かけます。山梨、長野、福島あたりが多いのですが、特に長野県の安曇野、上高地、白馬村地方の風景が好きで、何度足を運んでも飽きることはありません。家内は評論のみで絵は描きませんが、私が描いている間はあちこち車を走らせ、地元の物産店とか美術館の見学、温泉入浴など結構楽しんでおり、また先回りをして絵になりそうなポイントを探してくれます。これは現地での時間のロスが省け大いに助かります。大自然の中にイーゼルを立てて、にぎり飯をほうばりながらキャンバスに向う。私にとって正しく至福の一時です。

私は現在、富士美術協会の会員として、また地域のふるさと絵画教室の皆さんと一緒に、明るく、自由に、楽しく活動しております。これからも体力、気力が続く限り好きな絵を描いてまいります。そして渡邊先生に『いいねエー』と言われるような絵を一枚でも描けたら最高です。



平成27年8月

坂本耕一